

2023～社会福祉歴史研究・学説史研究の方法	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	元村 智明	

■授業のテーマ

社会福祉の歴史研究の視点と方法および学説史の検討

■授業の目的

社会福祉歴史研究および学説史研究における基礎的視点と方法への問い合わせとその成果について再吟味を目的とします。

■授業の到達目標

- (1) 社会福祉の必要性や成立について、段階論・時期区分の視点と方法、近現代の法制度と福祉実践の観点から説明できる。
- (2) 社会福祉の歴史研究および学説史研究についての研究視点とその方法について説明できる。
- (3) 社会福祉の必要性や成立について、社会福祉の歴史分析と規範分析の統合的理解の必要性を理解できる。

■授業の概要

「社会福祉」の必要性には規範分析が求められ、また「社会福祉」の拡がりには歴史分析を必要とする。その両者の関係は、社会科学としての史哲を意味する。それは「社会福祉」の成立について「なぜ、必要なのか」と原理論的に追究することと、他方で「どのように拡がりをみせたのか」と歴史理論的に追究することを意味し、両者の統合的理解と分析を必要不可欠とする。

ここでは、第1に「社会福祉」を認識するための手がかりとして段階論に対する時期区分の考え方、第2に近現代国家の役割と機能の一つである救防貧に対する政策転換と、さらには個人の仕事であり自由主義的傾向を帯びる福祉実践と、その両者の地域的展開について考える。第3に、現代日本社会に成立する「社会福祉」について、戦前の「社会事業」、戦後の「社会福祉」がいかに成立し説明されたかについて追究する。

以上を通して、社会福祉の歴史研究と学問構想が、社会福祉の規範と歴史に関わる議論として各自の研究テーマや研究課題といかに関連するかについて考えていただく。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	社会福祉の歴史事象と個別研究テーマ・研究課題の関連性について論じてください。	【提出時期】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 ()
課題 2 (事後課題)	社会福祉の学説と個別研究テーマ・研究課題の関連性について論じてください。	【提出時期】 <input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレ

ポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

レポート課題1は、自らの研究テーマ・研究課題に即して、その関連する社会福祉の歴史事象に対して、理念・法制度・福祉実践等の観点からその概略をまとめてください。それは、自らの研究テーマと研究課題の明確化を前提としながら、その研究領域の歴史事象について、なぜ興味や関心があり、どのような歴史事象があったかについての事実確認、理念と法制度への理解、地域社会での政策展開を含む福祉実践の観点からの把握とその概略を述べてください。例えば、その取り上げる歴史事象における先駆的な実践事例や地域事例、代表的人物でも構いません。その際に、自らの研究テーマや研究課題に対して、歴史的・社会的背景や一般的な理解、既存の学術的背景や学問的見方について追究することを意識してください。

課題2 アドバイス

レポート課題2は、スクーリング後に自らの研究テーマ・研究課題に即して、その関連する歴史事象を踏まえながら、歴史事象としての対象規定、当時の学問構想のなかでの議論の位置づけについて意識してください。特に、現在の先行研究の到達点と残された研究課題、自らの研究視点と方法について説明してください。自らの研究テーマと研究課題のさらなる具体化と明確化を前提として、その研究対象の歴史事象としての実態、学術的「問い合わせ」、基本的研究視点、自明性への「問い合わせ」を前提にして立論してみてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	イントロダクション「福祉の歴史」とは何か(序)	福祉、社会福祉、理念	「福祉」と「社会福祉」が異なることについての理解と現代社会に「社会福祉」が成立することの意味について歴史的に規範的に考える。
2	「社会福祉」認識のための三段階論と時期区分(I-1、II-1、III-1)	時代区分、時期区分、段階論	現代社会に「社会福祉」が成立することの意味について、洋の東西の社会構造の歴史的差異のなかで人類史の時間軸において段階的に「社会福祉」を捉えることの意味について学ぶ。
3	前近代日本社会と福祉実践(I-2、I-3、I-4)	慈恵、慈悲、隣保相扶	前近代日本社会における福祉実践について政治的理念の「慈恵」と仏教的的理念の「慈悲」、地域社会の「隣保相扶」の観点から生活支援の問題について社会構造から学ぶ。
4	近代日本社会と福祉実践(II-2、II-5、II-6)	一般救護、特別救護、慈善事業	近代国家としての役割と機能に基づく救貧と地域社会における「一般救護」と「特別救護」の関係、独立した個人の役割としての「慈善事業」とその社会化・組織化・専門化、その両者の関係と限界について学ぶ。
5	現代日本の戦前社会と福祉実践(II-7、III-4、III-6、III-8)	感化救済事業、地方改良事業、経済保護事業、農村社会事業、戦時厚生事業	20世紀前半の現代国家としての役割と機能に基づく「防貧」とその政策展開となる「感化救済事業」「地方改良事業」と社会事業の中心政策としての経済保護事業と農村社会事業、戦時下の厚生事業について学ぶ。
6	現代日本の戦後社会と福祉実践(III-9、III-10、III-11)	戦後福祉改革、福祉国家、日本型福祉社会	20世紀後半の現代国家としての役割と機能に基づく政策構想として、戦後改革と社会福祉、高度成長と社会福祉、低成長下と社会福祉の関連性について学ぶ。
7	明治維新と恤救規則(II-2)	恤救規則、制限救助主義救貧法	明治維新的持つ意味と日本版救貧法である恤救規則が制限救助主義救貧法であることの意味について学ぶ。
8	救貧法制構想と特別救護立法(II-5)	義務救助主義救貧法、特別救護立法	恤救規則の狭隘性のなかで構想される窮民救助法案、恤救法案・救貧税法案、窮民救済法案、救貧法案の未成立と特別救護立法の成立の意味について学ぶ。
9	戦時体制と救護五法(III-5、III-6、III-8)	救護法、軍事扶助法、母子保護法、医療保護法、戦時災害保護法	戦時体制と一般救護である救護法に対する特別救護としての軍事扶助法、母子保護法、医療保護法、戦時災害保護法についてその法令と実態から権利性の未成熟や弱さについて学ぶ。
10	戦後社会と社会福祉(III-6、III-9)	社会事業法、社会福祉事業法、社会福祉法	戦後改革と福祉の関係性について戦前の社会事業法と戦後の社会福祉事業法、現行の社会福祉法について学ぶ。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
11	戦前の社会事業学構想と福祉実践(III-2、III-3、III-4)	「社会事業」認識、社会事業研究、社会事業学、厚生学、社会福祉研究	戦前日本社会の法学者や社会政策学者の社会事業への認識と社会事業学者の学問構想に学びながら福祉実践の取り組みについて学ぶ。
12	戦前の社会事業史論と福祉実践(III-8)	社会事業史、日本佛教社会事業史、日本基督教社会事業史	戦前日本社会における社会事業の必要性について歴史的視点からいかに議論されたかについて学びながら、福祉実践の取り組みについて人物と地域社会での展開について学ぶ。
13	戦後の社会事業史研究と方法論	現代社会事業史研究、地域社会福祉史研究	社会福祉の歴史研究の方法論として社会事業史研究を体系化した吉田久一と地域社会福祉史研究を展開した田代国次郎の視点と方法を学ぶ。
14	戦後の社会福祉の歴史理論と方法論	救貧法、福祉国家、段階論	社会福祉を通史的に段階論として捉え、西洋史を基礎とする高島進と日本史を基礎とする池田敬正の両者の歴史研究の視点と方法を学びます。
15	「社会福祉」の成立と学問としての社会福祉	社会科学、規範分析、歴史分析	「社会福祉」を学問として、社会科学として議論するための規範分析と歴史分析の統合的理説とその必要性について考えてみます。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：50時間以上)

課題1レポートの作成にあたり、指定教科書の必読を求めます。23の章構成のため、1つの章の精読を通して筆者の歴史理論の前提となる歴史事象を理解し、基本用語の再確認や要点整理に取り組んでください。1章の精読では、少なくとも2時間程度の学習時間を必要とします。そのため毎週、指定教科書の一定分量の精読を通して内容理解を求めてます。

その上でレポート課題の「課題1」に取り組んで、対面授業の1週間前に事前提出ください。スクーリングでは、A4用紙1枚程度にまとめて、発表いただきます。提出は、対面スクーリング開始日までを目途とします（学習時間の目安：6～8時間）。そのための指定教科書の精読と基本用語の再確認と要点整理が重要です（学習時間の目安：45～50時間）。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	「福祉の歴史」とは何か、「福祉」と「社会福祉」の差異について理念問題として考えます。	オンデマンド
2	現代社会に成立する「社会福祉」を認識するための三段階論と時期区分の考え方について概説します。	オンデマンド
3	前近代日本社会の社会構造と福祉実践の関連性について、政治的「慈惠」と宗教的「慈悲」、地域社会のお互いの助け合いの「隣保相扶」から考えます。	オンデマンド
4	近代日本社会と福祉実践について、近代国家としての役割としての「救貧」について一般救護と特別救護の関係、そして個人の仕事である慈善事業について両者の関係と限界を概説します。	オンデマンド
5	現代日本の戦前社会と福祉実践について、国家が国民生活に関与する政策展開としての感化救済事業と地方改良事業、社会事業の中心事業となる経済保護事業、農村社会事業、戦時厚生事業について概説します。	オンデマンド
6	現代日本の戦後社会と福祉実践について、戦後改革と社会福祉、高度成長と社会福祉、低成長下の社会福祉について概説します。	オンデマンド
7	戦前の社会事業について学問構想と福祉実践について、法学者や社会政策学者の議論、社会事業学者の議論を取り上げて考えてみます。	対面
8	戦前の社会事業史がいかに議論され、構想されたかについて戦前の社会福祉の歴史研究の意義と限界について考えてみます。	対面
9	戦後の社会事業史研究と方法論について、全体史の構想と地域史の構想の両者について考えてみます。	対面

	授業の内容	授業の方法
10	戦後の社会福祉の歴史理論と方法について、通史を構想し西洋史を基礎とする考え方と日本史を基礎とする考え方について考えてみます。	対面

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：20時間）

スクーリング後に、自ら取り上げる研究テーマ・研究課題は歴史事象の何とつながっているかについて十分な歴史認識を踏まえて、さらなる研究史資料の蒐集とその読解、さらには先行研究の涉獵をもとに、課題レポートの作成に取り組んでいただきます。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（20%）、課題2レポート（20%）
- ・スクーリング（参加度60%）

■参考文献（＊印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 池田敬正著 『日本における社会福祉のあゆみ』 法律文化社、1994年
- 2) 池田敬正著 『日本社会福祉史』 法律文化社、1986年
- 3) 吉田久一著 『改訂増補版 現代社会事業史研究』 川島書店、1990年
- 4) 大谷栄一・大友昌子・永岡正己・長谷川匡俊・林淳『吉田久一とその時代—佛教史と社会事業史の探求』 法藏館、2021年
- 5) 日本社会事業大学救貧制度研究会編著 『日本の救貧制度』 効草書房、1960年
- 6) 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編著 『戦後社会福祉の歴史研究と方法—継承・展開・創造— 第1巻 思想・海外』 近現代資料刊行会、2022年
- 7) 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編著 『戦後社会福祉の歴史研究と方法—継承・展開・創造— 第2巻 理論・総括』 近現代資料刊行会、2022年